

園名（ 西脇こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 今の職員体制で、最善の保育を尽くしたい。
- 保育者が子どもに一生懸命関わっていると、子どもは伸びる。
- 職員には、目の前の子をどんな子に育てたいのか考え、その姿を思い浮かべながら保育をしてほしい。コロナで原点に戻って今何ができるのか、保育者それぞれが考えてほしい。
- コロナ後1年経った。コロナも含めてではあるが、その他の感染症対策に気を付けている。
- 園の行事として、伝承行事を引き継ぎたい。
- 世代間交流をしたい。地域の人と子どもが共に育つ保育をしていきたい。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>地域に根ざす園としての理念を掲げ、様々な分野で子育ての助けとなるような事業をされており、西脇の子どもたちが健全に育つようにと願っておられることがよく分かる。また、市の評価事業にも積極的に向き合ってきた結果、職員全体で保育の質の向上を目指そうとされている。</p> <p>保育環境としては、広い乳児室や奥行きのある幼児室など、工夫が必要なハード面を、どのように活用していくかが課題となっている。その中で、試行錯誤を繰り返しながら、子どもたちにとってふさわしい環境を追求し続けていることは評価に値するものとする。人的環境としては、若手とベテランが協力し合いながら保育にあたっておられ、以前よりもさらに協働して保育されているのが印象的である。お互いに支え合いながら、良さを生かしていくような様子が見られるようになってきている。</p> <p>乳児の保育については、広い保育室をさまざまに仕切りながら、環境の中に子どもたちが取り組みやすいコーナーが設けられている。機能的かつ想像力を膨らませるようなままごとコーナーや、落ち着いて本を見たりや机上遊びに取り組みたりする空間、園長先生のパフォーマンスから着想した太鼓遊びなど、子どもたちが楽しく遊びを展開できるような工夫に満ちあふれていて、質の高まりが感じられた。1回目の視察訪問時と比べても、2回目はさらに改善点が積み重ねられてきたと言える。</p> <p>幼児の保育については、3歳児のごっこ遊びや手先を</p>

	<p>使った遊びが充実していることや、4歳児の作って遊ぶ活動が発展していることなど、年齢に応じた保育がなされていると言える。また、5歳児ではグループで話し合い、考えを出し合って遊ぶ、協同的な活動を意欲的に取り入れられ、子どもたちの主体性を育もうとされている点が高く評価できる。1回目訪問時に助言を受けた子ども理解の内容を着実に踏まえて、2回目には大幅に改善されたことが見て取れる。今後も、保育の縦の流れが園全体で共有され、個々の年齢で育てるべきものをしっかりと継承していけるように保育を進めていただきたい。</p>
教育課程の編成	<p>・園の理念に基づき、教育課程の編成が十分なされている。継続してほしい。</p>
安全管理 ・ 防災教育	<p>・安全管理や防災教育については、避難訓練やその時々での保育内容によって、着実になされていると言える。今後も継続して取り組んでほしい。</p>
家庭 ・ 地域との連携	<p>・園での活動を保護者にどのように伝えるかが大切。迎える時に伝えるだけでは弱いかもしれない。お便りは読まれない家庭もある。伝える手段として、①お便り②掲示③口頭等、3つぐらいあると良い。</p> <p>・懇談が夏に1回のみなので、5歳児だけでも年2回あった方が良い。1回目は保護者に「子どもにどんなふうに育てほしいか」を聞き2回目は「今の園での現状」を伝えていく。</p>
職員の 資質の向上	<p>・職員の資質向上については、積極的に研修に出していただいていることは評価できる。どこの園でも難しいことではあるが、ノンコンタクトタイムを捻出しながら、園内での話し合いや共通理解、子ども理解の一層の深化などに力を入れていただきたい。</p>
食育 ・ アレルギー対応	<p>・食育の一環として、収穫体験や給食メニューの工夫がされており、食べることを楽しみにしながら、食について考える環境が整っている。また食物アレルギーについても、きめ細かい対応がなされていると言える。今後は、さらに食べることの意味や、アレルギーの知識など、子どもたちの学びになるような活動を工夫していただきたい。</p>
関係者評価の 取り組み	<p>・第三者評価や保護者アンケートを上手に活用していただきながら、今後も様々な方面からの声を生かして保育の改善に取り組んでいただきたい。</p>

園名（ 比延こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 自然に囲まれた環境で、地域の方とも密に関わり、助けもある。自然の中でいろいろな物、人に関わり、興味をもって幅広く経験し、楽しんでほしいと思っている。
- リズム体操はどの学年もしている。小さい子も楽しんでやっている。
- 課題はその都度考えていきたい。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>保育の内容や子どもたちの様子について、ドキュメンテーションを活用しながら保護者や地域に伝える努力をしてこられたことは、特筆すべき点と考える。その取組の中で、子どもたちの育ちを考えることや一人一人の理解を深めることがなされてきており、保育の質が向上していると感じられる。</p> <p>環境としては、自然豊かな地域で、地元の方々の支えを得ながら、地域全体で保育が進められているということが利点であると思われる。職員同士で支え合いながら保育が進められており、子ども一人一人の在り方を尊重しながら協力して日々保育・教育を進められているのが感じられる。良い雰囲気の中、子どもたちが伸び伸びと育っていると言える。</p> <p>乳児の保育については、自由に動ける環境の中、子どもの思いを大切にしながら保育がなされている。存分に体を動かし、満足いくまで遊びに集中できるように保育者が関わっていると言える。</p> <p>幼児の保育については、それぞれの興味関心に沿った形で、制作を行ったり、外遊びに熱中したりしており、子どもの思いが実現できるように環境や関わり等を工夫されている。3歳児では、コーナー遊びが充実しており、「作って遊ぶ活動」も存分に取り入れられ、想像力を発揮できるようになっている。4歳児では、外国籍の子どもに関連して世界に目を向けるコーナーがあるなど、環境を通して子どもたちが存分に遊べる雰囲気がつくられている。5歳児では、科学的なものの見方を育てたり数量に関心がもてるようにするような、小学校教育を見据えた活動が積極的に取り入れられている。自分の意見を述べながら、協同的に活動する場面も多くあり、</p>

	<p>年齢相応の経験が積めるように考慮されていると言える。</p> <p>今後は、乳児・幼児ともにさらにじっくりと遊びに取り組める環境を整えていくことで、子どもの育ちに深まりが出てくるような保育を目指し、引き続き努力していただきたい。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体の計画を今後も精緻化すると同時に、ドキュメンテーションを蓄積し、計画と子どもたちの活動のつながりを意識できるようにしていくと、より豊かなものになるのではないかと考える。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の子には少し難しいが、安全点検や避難訓練など着実にされている。</li> <li>・AED使用に関しても救急救命講習などを受講し、職員の対応力向上に努められている。子ども用のAEDもあるので4、5歳児も救命講習をしても良いのではないかと思う。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の畑で様々な自然体験をさせてもらったり、老人会との交流会をされる等、地域と多くの交流をもたれていて良い。</li> <li>・行事があったその日に、写真付きのお便りを配る等、情報発信に努められているところも良い。保護者にもよく伝わっているだろう。継続してほしい。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの研修に積極的に参加できる体制を整えられている。職員会議で報告の場を設定し、共有化を図られていることも良い。</li> </ul>
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な取組をされている。今後も十分留意して行ってほしい。</li> </ul>
関係者評価の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートに書かれている質問に対して丁寧に回答されており良い。アンケートに記入してもらうことも良いが、直接保護者から話が聞けるような機会もあれば良いのではないか。</li> </ul>

園名（ どれみこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 今の職員体制の中で、精一杯頑張っている。
- 3年前から環境の見直しを行っている。
- 先生たちが自主的にやりたいと思う保育ができるようにしている。
- 本年度はどのクラスも写真によるドキュメンテーションに力を入れている。
- 音楽は特別なものではなく、子どもの身近にあるものと思っている。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体で環境の見直しやドキュメンテーションの作成など、保育の充実に向けた姿勢が見られ、意欲的に取り組もうとしている雰囲気を感じられる。また、1回目の視察訪問での助言を踏まえて、保育者が環境を工夫する中で個々の子どもの興味や育ちを日々捉えながら保育を行っていることが感じられる。</p> <p>乳児は、一人一人の子どもに保育者が寄り添いながら適切に対応している。2歳児保育室では、自由な遊びとしてままごと遊びを大事にされており、1回目の助言を受けて、その後、保育環境や保育室の空間の使い方などさらに工夫されている。</p> <p>3歳児では、保育環境や保育室の空間の使い方などを工夫しながら、ままごとやブロック、積み木、絵を描いて遊ぶなど、自由遊びの中で子どもたちがイメージをもってゆったりと遊んでいる。4歳児は制作コーナーを設けることで、自分で自由に作る遊びが充実している。また意図的な制作活動も、子どもの発達に合った題材を選ばれている。さらに誕生表は子どもの誕生月に全身写真を撮り飾っているなど個々の園児を尊重している様子がうかがえる。5歳児でも制作コーナーを設けたり、秋の落ち葉を使った造形活動も環境づくりに工夫があったりして、子どもの感性やイメージを豊かにする保育を工夫されている。</p> <p>このようにどのクラスも子どものやりたい気持ちを大切にしている。今後は、今年度、意識的に取り組んでいるドキュメンテーションを使って、子どもの遊びや活動の中の取組の過程や、その時に何をやってみたいと思っていたのかという意欲を読み取り、その後の保育をどのように進めていくと良いかなどを考えていくツールとして活用していくことを期待したい。それを踏まえて、さ</p>

	<p>らなる環境構成の工夫を考えていただくと良い。</p>
<p>教育課程の編成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、今のままで良い。</li> <li>・これからはチームとしてどう考えていくのかを、園長をはじめ、副園長、主幹、副主幹も一緒になって意思疎通を図り、考えると良い。</li> </ul>
<p>安全管理 ・ 防災教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は「訓練」として捉えるだけでは、実際に災害が起こった時には通用しない。</li> <li>・まずは園内の体制を整え、園長・主幹・各担任が避難する時にどのようにすれば良いのか、シミュレーションし、それを言語化していく。</li> </ul>
<p>家庭 ・ 地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室まで迎えに来られるようになったので、保育室の制作やドキュメンテーションなど、保護者に保育室を見てもらうことから始め、園の保育を理解してもらえると良い。</li> <li>・各クラスのドキュメンテーションをカラーコピーして玄関に掲示すると、他のクラスの保護者にも理解してもらえる。</li> </ul>
<p>職員の 資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面式の研修会に戻りつつあるが、コロナ前と比べてリモート研修もかなり増えているので、園内で研修できるものもある。</li> <li>・YouTubeからの発信は無料のものが多いため園内でリンク集を作り、職員で共有し、自分のタイミングで資質の向上を図ると良い。</li> </ul>
<p>食育 ・ アレルギー対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり対応されている。問題ない。</li> </ul>
<p>関係者評価の 取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全体の共通の保護者アンケートについては、どのように回収率を上げていくかを考え、事前のアナウンスが大切である。</li> <li>・アンケートの結果を基に改善方法を考え、次に生かしていくことができるよう検討されているので継続してほしい。</li> </ul>

園名（ 日野こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 若手の自主研修を月に1度行っている。就職しても学べる環境作りをしている。研修だけでなく、コミュニケーションをとる場にもなっている。
- 作業療法士の山本先生に月に1度来ていただいて特別支援研修を行っている。
- 真心を込めた保育・教育活動を行うよう、努めている。
- 0～5歳の発達にあわせた保育・教育を行うよう、心がけている。
- 特性は個性と捉え、寄り添うことや目線を合わせて支援をすることを大切にしている。
- 地域・保護者の思いを大切にしている。
- 園というチームで保育を。チームで行えるようにしている。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>昨年度に引き続き、園全体で、子どもたちのやる気を引き出すような保育を目指している。保育室の環境については、保育者がアイデアを出して子どもたちの発達に応じたレイアウトにしている。</p> <p>乳児クラスでは、視覚・聴覚に刺激がある保育が展開されている。子どもたちの興味に応じて、体を使って遊ぶことができるスペースも作っている。1歳児では自然物を使った感触遊びを子どもたちに経験させたい、という保育者の思いもある。指先を使った遊びができるような玩具も作成されている。2歳児では、保育者との関係性が良く取れていることがわかる。子どもたちの遊びに応じて保育者が寄り添う姿が見られる。子どもたちに丁寧に関わっておられる様子がうかがえる。</p> <p>幼児クラスでは、昨年度に引き続き、制作活動と遊びが有機的につながり、子どもたちがやりたいことを実現できるようになっている。3歳児では、お店屋さんごっこのなかから、子どもたち同士のやり取りも見られるようになってきている。子どもたちの育ちに応じて、保育者が意図的な環境を整えているので、子ども同士のやり取りが盛んになってきている。4歳児では、子どもたちのよく頑張っているところをクラスに披露する、「〇〇ちゃんデー」を取り入れられ、皆の前で褒めてもらう経験を積み上げておられる。5歳児クラスでは、子どもが作りたいものに応じて教材が手に取れるような工夫もされている。「つなぐん」にも取り入れられるようなアイデアである。絵本コーナーにおいては、全クラス図書館との連携を図り、良い絵本が</p>

	<p>導入されるようになった。</p> <p>どのクラスでも、1回目の助言を踏まえて環境や関わりが改善されている。子どもたちが自由にかつ楽しそうに遊びに参画している様子から、保育者全体が子どもたちの発達に応じた遊びを提供できるような環境を整えていることが分かる。保育者自身も保育を楽しんでいる様子もあるので、子どもたちと共にさらなる高みを目指した園づくりを期待したい。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市やこども園のカリキュラム、方針・目標に基づいて教育・保育活動を推進されている。</li> <li>・2クラスある学年は、基本となる約束を統一するようにされているのが良い。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検や避難訓練をしっかりとされている。</li> <li>・避難訓練は、午睡時間や予告なしなどいろいろな時間や場面を予測し、避難訓練をされると良い。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事運営会議に出席され、老人会や区長会とも連携されるなど、地域に根ざしている。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭の研修の参加や栄養士の乳児保育研修の参加を受ける等の職員が学べる機会を作られている。また、月に1度、若手職員の研修の場を設けたり、作業療法士の方からアドバイスをいただいたりされている。体制が整っており保育に専念できる環境である。</li> </ul>
食育・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食室は常に、清潔な状態を保つようにされている。調理に使うものはもちろんのこと、給食室のエアコンも清潔にしてされていて、衛生管理が行き届いている。</li> <li>・新米を保育室で炊くなど、地元ならではの食材を使用し楽しんで味わい、食べることをされていて良い。</li> </ul>
関係者評価の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートについても、課題をピックアップしながら、保護者や職員と連携し、課題解決に努められている。</li> </ul>

園名（ かすがこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 園内研修を実施している。「ユニバーサルな教育・保育」を目指している。
- 支援が必要な子にとっての配慮は全ての子に優しい。そんな教育・保育になれば良い。
- どのクラスも頑張っている。担任も毎日試行錯誤している。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>昨年に引き続き、園全体がより良い保育をしていこう、共に考えていこうとする職員集団の雰囲気を感じられる。全体として子どもの主体的な遊びを大事にした保育が行われており、組織として大事にしたいこと保育者一人一人と共有され、実践されている。</p> <p>0・1歳児では、広い保育室ではあるものの、大きく4つのスペースに仕切られ、0歳の遊びを充実したコーナー、体を使って遊ぶコーナー、指先を使って遊ぶコーナー、大きな遊具の中に入って遊ぶコーナーに分かれている。そこに保育者が必ず一人は付き、安全にかつ好きな遊びができるように保障されている。0・1歳児でも集中して遊ぶことができるように、人的・物的環境に工夫がなされている。</p> <p>2歳児のクラスは、保育室が縦に長く、遊びスペースの確保のために、試行錯誤しながら環境を整えている。指先を使って遊ぶ玩具が数多く手作りされている。「遊びこむ」ということができる環境を考えて必要な玩具の数を準備している。</p> <p>3歳児では、一人一人が好きな遊びを楽しめるような保育を土台に、つながりあって自分たちで遊びを楽しめるように保育内容や環境を工夫している。ごっこ遊びでは、多くの店を展開され、子どもたちがやりたい気持ちを尊重して、遊びが展開されていた。</p> <p>4歳児も、ごっこ遊びやそれにかかわる制作活動に取り組む中で、子どもたちのやりたいことを尊重しながら多くのごっこ遊びが展開できるようにされていた。工夫をしながら遊ぶことができるような言葉がけもされていた。</p> <p>5歳児では、年長児らしい想像力や創造力を発揮できるような保育内容や保育環境の工夫がなされており、一人一人の育ちが保障される保育と言える。小学校を見据</p>

	<p>えた話し合いなども行われている。</p> <p>毎年、園全体でどのクラスでも、1回目の指導訪問での助言を踏まえて環境の工夫を行い、子どもたちの思いが実現できるように保育を構想し、保育の質を向上させたいという意欲が見られる。園長・主幹保育教諭を中心として、職員間で連携や情報共有を意識されていることも感じられた。引き続き保育者同士の対話を大事にしながら、さらに質を高めていくよう、尽力していかれることを期待する。</p>
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内面を大切にしている保育が行われていて、良い取組をされている。</li> <li>・西脇市就学前教育・保育カリキュラム及び、こども園の理念、保育の方針や目標に基づいて教育をされているので、次年度以降「カリキュラムに基づいて」という一文を入れると良い。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園職員が臨機応変に行動できるようにすることは難しいが、そこを意識してされていてとても良い。</li> <li>・不審者についての訓練は今の時代に子どもの安全を守るために、今後も継続してほしい。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園カウンセラーの活用については、保護者はもちろん保育者も悩みなどを相談することができているため、今後もそのような活用が継続できていくと良い。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修などを行い、職員一人一人の負担がかからないよう配慮し、チームとして質の向上に努められるような内容を職員全体で相談しながら検討していき集団の力をあげるとよい。密にかかわろうとされている。</li> </ul>
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対応は十分されている。引き続き、給食提供前にアレルギー疾患児除去食の確認を複数の職員で行う。担任の先生の意識を高め、職員のトリプルチェックを行う。</li> </ul>
関係者評価の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題なし。今の状態を継続する。</li> </ul>

園名（ つまこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 「いきいき 笑顔 つながる心 広がる信頼の輪～保護者・職員に選ばれるこども園を目指して～」という保育理念の下、頑張っている。
- 今年度から看護師を採用した。また職員が休暇を取りやすいようにして働きやすい環境づくりを整えている。
- 食物アレルギーがある子も一緒に食べられるようなメニューを増やしたり、トレイに顔写真を貼って間違わないようにしたりしている。
- 給食に力を入れている。1汁2菜を心がけ、週4回手作りおやつを作っている。インスタグラムも始めた。

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体で保育室の環境を工夫し、ドキュメンテーションを活用しながら保育の充実に向けて意欲的に取り組もうとしている雰囲気が感じられる。特にどのクラスも子どもが主体的に遊びを進めていけるように、既製品の玩具だけではなく、園児の発達や興味に応じた環境を手作りで工夫している。</p> <p>0,1歳児保育室では、微細運動に関わる遊びや環境、感触遊びに関わる環境など工夫し、一人一人の園児に保育者が寄り添いながら適切に対応している。2歳児では、1回目の視察訪問時に「『5領域』の観点で保育環境を見直してみると良い」という助言を受けて、その後、保育環境や保育室の空間の使い方など更に工夫されていた。特にままごと遊びの環境の充実が図られている。</p> <p>3歳児では、1回目の「『常設コーナーの考え方や一人一人の楽しい思いの充実』の視点から環境を見直してみると良い」という助言を受けて、保育環境を工夫されている。イメージをもって遊ぶことが楽しくなる時期の子どもたちであるので、どんなイメージを働かせているのかという子どもの遊びの理解を踏まえて、絶えず環境を工夫し続けることを大切にされると良い。4歳児は子どもが主体でラーメン屋さんごっこを進めるなど、保育の展開や環境が工夫されている。5歳児でも子どもが主体で遊びを進めるなど、保育の展開や環境が工夫されている中で、10の姿の「協同性」や「言葉による伝え合い」を大切に保育を進めている。今後は更にドキュメンテーションを活用した子ども理解を深める園内研修など</p>

	を行うと、実践力が更に高まると思われる。
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で考えておられる。職員皆が同じ方向を向き、「質を向上させる」ということについて意欲的に前向きに取り組まれている。引き続き継続してほしい。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルを回しながら適切に実施されている。</li> <li>・園外保育時における「園スマホ」（連絡先入力済）を導入されるなど、種々検討を重ねながら取り組まれている。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン講座を開くなど開かれた教育、保育を実践されており、評価できる。「開かれた教育課程」（文科省）の中に、地域に開かれ、地域に根ざした教育課程と書かれている。継続してほしい。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体で保育の方向性を考えることは、資質向上につながる。</li> </ul>
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーのある子どもみんなと同じ空間で安心して食べられるように配慮されている。万が一のことが起こりにくいような工夫もしっかりとされている。</li> </ul>
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ごとの保護者へのアンケート及び年度末の保護者アンケートなどで保護者の意見を把握している。また、その結果の検討を踏まえて保護者に発信している。</li> <li>・年度末には職員へのアンケートを行い、より良い職場環境づくりと保育の質の向上に向けて取り組んでいる。</li> </ul>

園名（ 芳田こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 子どもの健やかな成長が図れるよう、日々の関わりを大切にしている。また、保護者や祖父母にも園に来ていただく行事を計画し、園を知っていただき、安心してもらいたい。
- 子育て支援を十分にしていきたい。
- 主幹も乳幼児担当と幼児担当で別々に配置しており、きめ細かい関わりをしている。
- 月に1回職員会議、学期に1回園内研修をしている。園全体がチームとなって保育にあたっている。

	担当委員より
<p style="text-align: center;">教育 ・ 保育内容</p>	<p>園全体で保育の質の維持・向上のために、チームとして保育に意欲的に取り組もうとしている雰囲気が感じられた。どのクラスも子どもが主体的に遊びを進めていけるように、既製品の玩具だけではなく、子どもの発達や興味に応じた環境を手作りで工夫している。</p> <p>0,1歳児では、笑顔で声かけしながらスキンシップを大切にしており、一人一人の子どもに保育者が寄り添いながら適切に対応している。また、子どもの育ちを支える保育環境を工夫している。2歳児では、1回目の視察訪問時の助言を受けて、子どもの興味・関心に合わせて保育環境や保育室の空間の使い方など更に工夫されている。特に、どんぐり転がし、なりきり遊び、弁当作り等の保育環境の充実が図られている。</p> <p>3歳児では、「『一人一人の楽しい思いの充実』の視点から環境を見直してみると良い」という助言を受けて、保育環境を工夫されている。特に、アクセサリー作りや転がし遊びは、一人一人の楽しい思いを発揮できるので良い。</p> <p>4歳児は1回目も2回目も子どもが主体的に色水遊びを進めていける環境を園庭に用意され、遊びの継続の中で試行錯誤したり、気付きや発見が豊かに生まれたりするように保育の展開や環境が工夫されている。5歳児でも子どもが主体で「自分たちで作るサーキット遊び」や「ハロウィンパーティー」を企画実行するなど、保育の展開や環境が工夫されている。今後は更にドキュメンテーションを活用した子ども理解を深め、保育の展開を考えていく園内研修などを行うと、実践力が更に高</p>

	まると思われる。
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月案も理想的に作成されている。視察訪問時資料の自己評価の取組内容と月案とが合っているかチェックをしていくことで、自己評価と月案が連動するようになる。合致する部分にはラインを引き、合っていない部分、取り組んでいない部分は次への課題へとつなげていくようにすると良い。</li> <li>・月が終わった後の評価とし、全体計画に反映されていくと良い。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は同じような内容、パターンの避難になりがちなので、まずは違う設定の訓練を1回でもよいのでやってみると良い。</li> <li>・火事の際の設定を5歳児に伝え、どう逃げると良いかを子どもたちと先生が「自分たちで考えてみる」ということも良い。「先生が決めたことだけ」に縛られないことが大切。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関先でのドキュメンテーションによる情報発信や、地域との連携も十分されている。他園でも広がると良いと思う。</li> <li>・保護者で情報に疎い方、またバス通園で園に来られない方への対応を工夫する必要がある。タイミングを逃さず声をかけることで、伝え漏れ、聞き漏れが減るのではないか。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察訪問時資料の自己評価で書かれている内容や質問内容が高度になってきている。管理職等の先生方のチェックもある中、職員が意欲的に取り組まれている。</li> <li>・今回の視察訪問の助言の中で「10の姿」プラス教育・保育要領の「5領域」を結び付けて話をした。今日の実際の保育、ねらい、内容とどう結びついているか、ということのをこれからも確認して行ってほしい。</li> </ul>
食育 ・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の状況に書かれている通りで、十分配慮されて進められている。</li> <li>・このまま継続していただきたい。</li> </ul>
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察訪問は、外部からの保育・教育の評価として位置付けることができる。</li> <li>・第三者評価の機関は適切に選ばれた方が良い。慌てて取り入れる必要はない。</li> </ul>

園名（ 黒田庄こども園 ）

【園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- ①特別支援教育の推進
- ②地域力の活用
- ③園小接続の強化

	担当委員より
<p>教育 ・ 保育内容</p>	<p>全体として穏やかに子どもが過ごす環境を整えられており、一人一人の職員が子どもが保育の中で、学びと楽しみを共に経験できることを考えながら保育をされていることが分かる。園としての理念が共有され、実践されていると言える。</p> <p>乳児クラスは全体に落ち着いており、保育者が丁寧に関わっている。環境も適切で、子どもたちが日々の生活を楽しく過ごせるように発達に応じた手作りの玩具を作り、子どもたちの興味・関心に沿った環境が提供されている。</p> <p>0歳児では、一人一人の子どもに目を向け、スキンシップを大切にしつつ、興味があることに共感して保育が行えるよう、発達に応じた玩具が整えられている。1歳児では、自分で選んで遊べる環境が整えられている。体を使って遊ぶコーナー、指先を使って遊ぶコーナーなど、適切に環境が構成されている。友達との関わりも増えており、子どもたちが順調に育っている。2歳児では、子どもの遊びが広がるように、提供されている玩具等は適切であるので、今後は机等の配置を変えると、子ども同士の関わりも増えやりとりが増えてくる。</p> <p>幼児クラスは、子どもたちの性格や興味関心に合わせながら、自立して考えられるよう工夫されている。3歳児では、保育者の手作り玩具にて保育が展開され、子どもたちが興味を示しながら保育に参加できるよう、人的・物的環境が整えられている。4歳児では、環境の工夫がなされており、子ども一人一人の発達や興味に応じた玩具が提供されている。保育者が子どもを丁寧に見ておられ、苦手な遊びがあっても、苦手意識をもたずに遊びに取り組めるような配慮がなされている。5歳児では、友達同士の関係性も深まってきている。子ども同士が気持ちよく相手に伝える方法が身に付くような声かけをしながら保育されている。</p> <p>助言に基づいて、すぐに環境の工夫を試みようとする行動力のある保育者が多い。子どもの発想を重視し、興味関</p>

	心から活動が膨らんでいくように心がけられていた。全体として、園長・主幹保育教諭を含め保育者全員が同じ方向を目指して改善に取り組まれる組織であることが分かる。
教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年によって留意される部分が異なり良い。</li> <li>・このまま継続してもらいたい。</li> </ul>
安全管理 ・ 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急連携訓練はとても良い取組だと思う。</li> <li>・有事の際、またパニックになった際の判断しづらい状況をシミュレーションしておくことが大事。</li> <li>・毎年、継続実施してもらいたい。</li> </ul>
家庭 ・ 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の情報誌に園の様子を載せられていることは、未就園児の家庭にも情報発信することができ、とても良い取組だと思う。</li> <li>・継続されたら良い。</li> </ul>
職員の 資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は既存の「100の自己チェックリスト」を活用し自己評価されているが、他園の実態も聞かれながら、園独自のものになると良い。</li> <li>・個々の課題を自身に分かることはとても大切であり、園の保育の底上げにつながる。</li> </ul>
食育・ アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新米をいただく経験（食育指導）もされている。</li> <li>・穂になった実がどれほど大切か分かる経験は、とても大事。保護者の経験も乏しくなっている時なので、子どもの経験からの保護者への啓発はとても大切。</li> </ul>
関係者評価の 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートをとられ、次年度の活動に生かそうと適切に行われている。継続してほしい。</li> </ul>

令和6年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会  
園小接続報告書

内容

視察訪問では、どの園も整備された清潔な環境の中に、子どもの作品やドキュメンテーションが丁寧に掲示されており、加えて手作りの玩具や段ボールを活用したパーテーションの工夫にも感銘を受けた。

また、温かい雰囲気の中で、子どもたち一人一人が主体的かつ生き生きと活動する様子が印象的であった。職員の丁寧な関わりや配慮が随所に感じられ、子どもたちが安心して過ごせる環境が整備されていることがよく分かった。

特に、子どもたちの興味関心を起点とした学びを引き出し、それを深めていくための手法や姿勢は、小学校教育が今後さらに取り入れるべき要素である。この点については、園小交流訪問でこども園を訪れた小学校教員の感想とも一致しており、こども園から小学校が学ぶべき点は多い。

現在、小学校教育では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、教師主導型の一斉授業からの脱却を進めているところであるが、意図的に設定された場において子どもたちが自主的に取り組む様子は、まさに画一的な一斉授業から脱却した姿であり、園児の主体性と創造力を尊重した保育の実践を強く感じさせるものであった。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』」を目指した質の高い教育活動は、小学校教育にとっても非常に示唆的である。就学前教育で育まれる主体性や創造力を小学校教育へと円滑に引き継ぐためには、こども園と小学校がさらに連携し、互いに学び合いながら協働していくことが不可欠である。

令和6年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会  
特別支援報告書

内容

支援の必要な幼児の相談として、アセスメント（実態把握）から卒園時を見据えた支援や関わり方につながるような助言を行った。継続的な相談を行ってきた効果として、園から主体的な相談も増えてきた。うまくいった点やいかなかった点など具体的な報告もあり、効率的に子どもの実態把握検討が深められるようになってきている。

○園巡回でのアセスメント方法と状況

- ① 観察法…聞く力、見る力、記憶力、理解力、感覚の違い（環境も含めた）身体の使い方や人との関わり方などの視点で観察を行っている。
- ② 面接法（聞き取り）…本人と直接のやり取りや先生方から成育歴や園以外での様子などの聞き取りを行っている。
- ③ 検査法（知能検査・発達検査）…専門家につなぎ、客観的なデータ取得依頼をしている。（共通理解の根拠となるため）
- ④ その他の情報収集：作品法…制作物の提示を依頼している。  
事例研究（検討）法…園によっては開催した。

○困難さが見られる子どもへの取組の視点

子どもの活動を ①できること ②支援があればできること ③できないことに分類をして ②の支援があればできることに重点を置いて取り組む。集団活動で、何をすべきか理解できていなかったり、理解していても気持ちの切り替えや不器用さから活動に時間がかかったりして、すべきことを忘れてしまう子どもがいる。その支援の例として、個別の言葉かけや見本の提示、活動量や環境の調整などが有効と考えられる。できないのではなく、△△があればできることを意識して、△△に当たることを試しながら見付けてもらいたい。

○保護者理解を得るための伝え方の視点

保護者には、支援があればできることを具体的に伝える。支援度により園での支援提供が難しい場合、できることとできないことを明確にし、子どもの成長に有効なサポートを受けられる方法を相談していく。園での丁寧な関わりでのメリットが伝わると、合理的配慮（障害を認めて支援を求める）の申請を理解してもらいやすくなる。小学校就学において、どのような環境や支援が子どもの力を伸ばすために適切であるかを検討する必要性も伝わりやすくなる。

○小学校就学を見据えた支援の方向性

直接的な支援から間接的な支援に移行していく視点で対応する。  
例えば、保育者の言葉かけ（直接的な支援）で活動できる。⇒見本（間接的な支援）に気付いて活動できる。見本とは、視覚支援教材や友だちの様子である。自分で見本を見付け活動できるようになると支援者の負担は減ってくる。自分でも自分でどうにかできたことで自己肯定感を高めることにもつながる。見本に気付かせるための関わりをスモールステップで進めてほしい。

例としては「△△ちゃん、どうしている?」「これでよかった?」などの間違いに気付かせ、気付いたことを誉めていく言葉がけである。

将来的に、自分の強み・弱みが理解でき、苦手なことは助けを求められる人になることを目指し、困った時にどうにかなった体験ができる環境や課題を意識して関わってもらいたい。また、園での取組を小学校に引き継いでいただきたい。